

# ハーモニー

Harmony

第52号 2010年6月14日発行  
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座  
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

2010年度の学会事業について.....	1
第18回学術集会（大阪）へのお誘い.....	2
第18回学術集会のご案内—第2報—.....	2
トピックス：教員の資質向上方策の抜本的な 見直しにおける「教員養成6年制」の検討に ついて.....	3
私の県の「ここが特色」⑧.....	4

「私の実践と研究」リレー・レポート⑥.....	5
研究助成金研究の経過報告.....	5
2011年度研究助成金研究の募集.....	6
「投稿奨励研究」制度が発足.....	6
投稿原稿の募集.....	7
理事会等の活動報告.....	7
事務局より・編集後記.....	8

### 2010年度の学会事業について

理事長 後藤ひとみ

昨年は、「新役員体制について」と題して、「今期(2009年度～2011年度)は本会設立から20年を迎える節目の年へとつなぐ大事な時期にあたることから、これまでを総括しつつ、20年後、30年後の本会が『養護教諭の資質や力量の形成及び向上』にますます寄与できる学会として発展するような礎を築く役割がある」ということを述べました。そして、次のような2つの課題を挙げました。

①量的な面で会員増を図ること

②質的な面で日本養護教諭教育学会だからこそできる学会活動の充実を図ること

この1年を振り返ってみますと、2009年度の事業として予定していた事項（学術集会の開催、学会誌の発刊、機関紙の発行、投稿奨励研究の選定方法の決定、学会活動委員会の事業である常設と時限の委員会の活動など）はほぼ計画通りに行うことができたと言えます。しかしながら、①②のような抜本的な課題については、2010年度において、より活発に、より具体的に取り組んでいかなければならないと思っています。

特に②については、後欄のトピックスで取り上げたように、養護教諭を含む教員の資質向上方策が検討されている現状をふまえて、これからを見据えた学会活動が必

要であると考えます。また、①については、ネットワークの時代を意識した工夫も必要であろうと思います。

そこで、4月4日に2009年度総括と2010年度計画について協議した常任理事会での議論をもとに、2010年度事業における重点活動を挙げておきたいと思います。

第1は、学術団体としての責務を果たすべく、学会の活動を充実させることです。具体的には、養護学などと称される「養護教諭の専門性を支える学問」の構築に関する検討、学術集会における発表区分の検討、科学研究費の申請分野等に関する検討、研究倫理の審査に関する検討などを進めていきます。

第2は、会員の研究活動を支援し、研究成果の公表機会を増やすことです。具体的には、学会助成研究や投稿奨励研究の選定によって投稿論文の量的・質的な充実を図ります。規約改正を行い、学会誌の年2回発刊の準備を進めます。

第3は、上記の活動を支える費用の財源を確保することです。具体的には、学会の紹介や入会案内を工夫して、一般会員のみならず、賛助会員や団体会員を増やすことに努めます。合わせて、会員対象調査の結果を参考にしながら、収支実績をふまえた予算を立てていきます。

その他、選挙管理委員会の立ち上げや20周年記念事業の計画も進めていきます。会員の皆さまにおかれましては、学会活動の活性化にむけて、ますますのご支援とご協力をお願いいたします。

第18回学術集会（大阪）へのお誘い

10/ 9（土）～10/10（日）

学会長 楠本久美子（四天王寺大学教育学部）

日本養護教諭教育学会第18回学術集会を2010年10月9日～10日に大阪府教育会館たかつガーデンで開催いたします。実り多い学術集会になるよう、皆様のお力添えをいただきながら、現在、開催の準備をすすめています。

今回の学術集会は、今までの「養護教諭の実践」の研究を踏まえ、「今、改めて養護教諭の教育を問う」ことをメインテーマにしました。最近の子ども健康課題は複雑かつ多様化していて、子どもへの適切な支援および学校、家庭、社会との連携した対応が養護教諭に求められています。

「今、求められる養護教諭の教育」について、どのような教育理念および方針等が重要であるのか考えてみたいと思います。

シンポジウムでは、学校を取り巻くさまざまな今日的課題を踏まえながら、現職養護教諭、教育行政および養成大学の立場で、今後の養護教諭の教育の課題について皆様とともに考えたいと存じます。共に創造する学術集会にできればと期待して、皆様のご参加をお待ちしております。

第18回学術集会のご案内—第2報—

事務局長 大川 尚子（関西福祉科学大学）

1. 期 日

平成22年10月9日（土）12時30分～17時50分

10月10日（日）9時00分～16時00分

プレコンGRESS

10月9日（土）10時00分～11時30分

2. 会 場

大阪府教育会館たかつガーデン

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11

Tel: 06-6768-3911

3. メインテーマ

「今、改めて養護教諭の教育を問う」

4. 内 容

【10月9日（土）】9時40分～受付

1) 学会長基調講演 12時30分～13時

「これからの養護教諭養成教育を考える」

2) 教育講演 13時10分～14時10分

「今、学校保健に求められる健康教育」

岡本和美氏

（奈良県医師会、元奈良県教育委員長）

3) シンポジウム 14時30分～16時

「今、求められる養護教諭の教育」

コーディネーター：北口和美（大阪教育大学）

シンポジスト

日垣慶子（大阪府学校保健会養護教諭部会長、熊取町立西小学校養護教諭）

南川恵子（三重県教育委員会事務局 研修指導室 主幹兼研修主事）

高橋香代（日本養護教諭養成大学協議会長、岡山大学大学院教育学研究科教授）

4) ワークショップ 16時10分～17時50分

\*ワークショップ参加は事前に募集します。

(1) 「アレルギーのある子どもへの対応」

コーディネーター：辻 立世（兵庫大学）

(2) 「産婦人科診察室からみた10代の生と性」

加藤治子氏（性暴力救済センター大阪・SACHICO 代表、阪南中央病院婦人科医師）

コーディネーター：津川絢子（四天王寺大学）

【10月10日（日）】9時～受付

1) 口演・口演示説（ポスター発表）

9時30分～10時50分（発表8分、質疑応答7分）

2) 特別講演 11時～12時

「仏教と教育」 奥田聖應 殿下

（四天王寺第111世管長）

3) ランチョンセミナー 12時10分～13時

\*ランチョンセミナー参加は事前に募集します。

「子どもの成長障害について」（仮題）

4) 総会 13時10分～14時10分

5) 口演・学会活動委員会報告・学会助成研究報告  
14時20分～16時

5. 一般演題の募集

1) 口演と口演示説（ポスター発表）

2) 演題締め切り

平成22年7月12日（月）必着

3) 抄録原稿締め切り

平成22年7月31日（土）必着

4) 送付先

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3-2-1

四天王寺大学 楠本研究室

Tel: 072-956-3181（代） Fax: 072-956-6011

E-mail: 18jayte@shitennoji.ac.jp

6. 参加費

会 員：3,500円（8月31日までの申込）

4,000円（9月1日以降の申込）

会 員 外：4,000円

学 生：2,000円

抄録集のみ：1,500円（送料込み）

## 7. 宿泊はシテンノウジワークがお世話します。

担当 内田 大阪市天王寺区四天王寺1-14-12

Tel: 06-6773-5688, Fax: 06-6772-2377

E-mail: travel@shitennoji-work.co.jp

## 8. お問い合わせ

詳細は、日本養護教諭教育学会公式ホームページ  
URL <http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp/> を  
ご覧ください。

## トピックス

### 教員の資質向上方策の抜本的な見直しに おける「教員養成6年制」の検討について

理事長 後藤ひとみ

わが国の教員養成制度は、医師・歯科医師・獣医師に次いで、法曹や薬剤師も6年教育になったこと、諸外国の教員養成も長期化の傾向にあること（例えば、フィンランドは原則として学士レベル3年+修士レベル2年、ドイツやフランスも同じ方向で進んでおり、イギリスは教員修士（MTL）の導入を決定して4月より試験運用を行っている）などの動きを受けて検討が進められてきた。

中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（2006年7月）では、大学の教職課程の課題として、学生に身に付けさせるべき最小限必要な資質能力の理解が十分でないこと、カリキュラム編成が必ずしも十分に整備されていないことなどが挙げられ、学校現場が抱える様々な問題に対応できる人材の育成が必要であることが指摘された。このことは、ベテラン教員が大量に定年退職することで経験の浅い教員が増えていく今後を見据えると急務の課題である。

そこで、文部科学省は本年1月21日付けで、「教員の資質向上方策の抜本的な見直し」に着手するにあたって、研究機関等への委託調査、教育委員会及び大学からの提案募集、教育関係団体からの意見聴取を行うことを発表した。さらに、幅広い視点に立ち、教員の資質向上を図るためのあらゆる課題について検討を行う必要があるとして、次のような検討課題が示された。

- 1) 教員に求められる資質能力について  
…養成・採用・現職の各段階で教員に求められる資質能力は何かなど
- 2) 教員免許制度の果たすべき役割について  
…各段階で求められる資質能力を教員免許制度や任用制度においてどう確保すべきかなど
- 3) 大学の教員養成課程の在り方について  
…教員養成課程で取り扱うべき内容は何か、ど

の程度の期間とすべきか、実践的指導力を身に付けるために必要な方策は何かなど

#### 4) 現職教員の資質向上の在り方について

…現職教員の質の確保方策としての教員免許更新制をどう考えるかなど

すでに、教育関係21団体のヒアリングや国民各層からの意見募集が行われており、学級編成や教職員定数改善計画については、5月中旬までに有識者ヒアリング、教育関係団体ヒアリング、地方3団体ヒアリングを行って中教審初等中等教育分科会で審議の後に8月には平成23年度概算要求にむけた提案がなされることである（鈴木寛文部科学副大臣の第3回日本教職大学院協会総会（2010.5.21）における資料より）。

これらの検討に先立って、民主党マニフェストでは「全ての人に質の高い教育を提供する」という政策が掲げられ、「教員の資質向上のため、教員免許制度を抜本的に見直す。教員の養成課程は6年制（修士）とし、養成と研修の充実を図る。」ことが示された。また、2009年6月10日に参議院で可決されたものの、衆議院の解散で廃案となった「教育職員の資質及び能力の向上のための教育職員免許の改革に関する法律案（教職員免許改革法案）」では次のような事項が挙げられていた。

- 1) 現行制度の普通免許状を一般免許状（大学院修士レベル）と専門免許状（一般免許状の授与を受け8年の実務経験を受けた後に教職大学院で単位修得）に区分する。
- 2) 普通免許状（一般免許状と専門免許状）は文部科学大臣が授与する。
- 3) 管理職登用には専門免許状（学校運営）の取得を条件とする。
- 4) 現行2～4週間である教育実習を1年に延長する。

このうち、4)の1年間の教育実習は養護教諭への適用についてふれていなかったが、1)～3)のことや、普通免許状や臨時免許状を学校種ごとに区分することは養護教諭や養護助教諭にも適用することが記されていた。

教職員免許改革法案のような教員免許の改革が検討される一方で、教職大学院を活用した教員養成の改革も検討されている。

しかし、「大学における教員養成」を原則としながらも、課程認定等によって様々な教員免許状の取得のしかたを可能としている現在、教育年限の延長を実現させるにはいくつかの課題が指摘されてきた。それは、「修士（6年一貫とは限らない。4年+2年または4年+α）にふさわしい教育内容の検討」、「長期教育にかかる経費（授業料の負担増、担当教員の負担増）へ

の対応」、「免許状取得後の赴任先の確保」、「1年間に及ぶ教育実習先の確保」などである。

これらの課題に対応した制度設計として三重大学が提案している「教員養成6年制試案」は非常に興味深い。そこには、次のような内容が記されている。

- 1) 学生には「基礎免許状」を与え、これを教員採用試験の受験資格とする。教員採用試験の不合格者や正規の教員採用を望まない基礎免許状所持者は講師になることができる。
- 2) 教員採用試験の合格者全員が、当該の地方自治体に設置された教員養成大学院に入学する。修士課程で1年間の長期教育実習を含む所定の単位を得た者に修士の学位と一般免許状を与え、正式の教員として採用する。
- 3) 大学院では、1年次には教科や教職に関わる高度な研究力を身につけるようなカリキュラムを実施する。2年次には常勤の教員扱いとして一般学校(翌年の大学院修了以降も勤務する予定校)で1年間の教育実習を行う。

これらは、前述の課題に対応した制度として参考になるものと思う。今回の制度改革は、「教育職員の資質及び能力の向上」と銘打っていることから、どんな資質や能力を育てるかという教師教育の視点と、そのための制度改革の視点での議論が行われている。養護教諭養成においても、2つの視点をふまえた上での養成・採用・現職をつなぐ包括的な制度設計が急がれる。本会も情報収集に努め、学会としての対応を考えていかなければならない。

## 私の県の「ここが特色」⑧

### 養護教諭が進化するための「力」をつけよう

戸塚 豊子(静岡県養護教諭研究会会長)

子どもたちの将来にわたる心身の健康に携わっている私たちは、諸先輩が築き上げた静岡県養護教諭研究会をさらに進化・発展させるために、個としてまた組織としての「力」をつけていこうと努力しています。

#### 1 資質向上のための活動

##### (1) 夏季研修会と冬季研修会

毎年8月は県全体を対象に専門的な知識・技術に関する研修を行っています。12月は参加希望制の企画研修で、実技を主とした内容で行っています。

(2) 各種委員会活動(本研究会では、4つの委員会が活動を進めています。)

##### ①会誌「たちばな」編集委員会

毎年、その年度の学校保健の動向を始め、地区の研修内容や個人の研究論文の紹介、地区の活動の様子などを掲載し、会員の相互理解や日々の執務にも刺激を与えるものとなっています。

##### ②事例集編集委員会

養護教諭の職務の中で、今日的課題について取組んでいるものを事例集としてまとめ、隔年で発行しています。平成18・19年度発行の「実践事例集10」は「養護概説」のテキストに匹敵する事例集として会員はもとより、他県の養護教諭・関係者からも高い評価を得ています。また平成20・21年度は、「特別支援教育における養護教諭の役割」を発行しました。

##### ③調査研究委員会

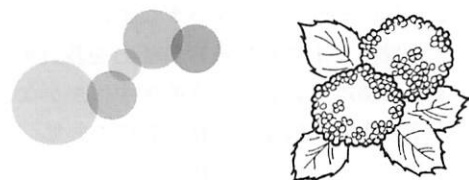
平成4年度から毎年全会員を対象に、養護教諭にかかわる実態調査を実施しています。調査内容は、免許取得状況や保健主事登用状況、保健室の施設設備、保健室登校や虐待・いじめに関する調査などです。これらの結果をもとに課題を明確化し、その解決のための研究や方策について関係機関に連絡協議していく資料としています。

##### ④ホームページ編集委員会

研究会の紹介はもとより各種研修会の案内、法規集、関係機関とのリンクなど多方面に渡って活用できるよう工夫しています。また、会報や代表者研修会の議事録も閲覧できるようになっており、情報の共有化に役立っています。また、ホームページ作成講座も年1回開催し、会員のホームページ開設のためのお手伝いをしています。

#### 2 運と営の活性化のための活動

研究会の課題解決をしたり、養護教諭の専門性を高めるための会員自身が求める研修についての確に捉えたりする場としての代表者会が年3回開催されます。これは、県下16地区の代表者と役員で構成され、会員と地区代表者及び地区代表者と役員との相互の連携に欠かせないものになっています。会には県教育委員会指導主事や顧問校長も出席いただき、幅広い見地から研究会への助言や指導をいただいています。



「実践から 研究へつなげる」

五十嵐利恵（越前市武生西小学校）

子どもたちが生涯を通じて健康で安全な活力ある生活を送るために、「心とからだの健康教育」を学校教育活動にどう取り入れていくとよいのか、また養護教諭としての専門性を活かした支援のしかたはどうあるべきかを考えているうち、その手立てとして、知る楽しさ・学ぶ楽しさを味わえ、科学的内容を盛り込んだ「手作りの媒体を活かした健康教育」にかかわるようになりました。「どう説明したら理解が深まるか」「指導内容を分かりやすく伝えるためには…」と工夫するうち媒体（教材・教具）ができたのです。実践に使った後は、修正・改良し次の指導での使い方をさらに考えていきました。

その後、養護教諭が子どもたちとかかわる機会（学級活動や保健委員会、総合的な学習など）を有効に活用するため、「簡単な実験や体験活動を指導の導入や展開の場面に取り入れる実践」に取り組みました。

これらは研究成果物としてまとめたものの、実際には実践資料集にとどまっていたことを今更ながら反省しています。近年は、やりっ放しや自己満足の指導に終わらないために、実践を研究につなげる努力をするようになってきました。

今、実践していることは「養護教諭の行うタッチングの研究」の第3段階「タッチングの効果を数字で見る研究」と、「こころげんキッズ（心の健康教育に関する介入研究）」です。

タッチングの研究は客観的な見解が必要となります。養護教諭として学校での実践は容易でも、研究データを取るとなると障害があり、なかなか進まないのです。またデータをとっても分析する力がないのが悩みです。現場の養護教諭の実践研究について指導や助言をしてくださるスーパーバイザーがいてくださるとありがたいと思う昨今です。

さらに昨年度実施した「こころげんき大作戦」が拡大し、今年度は学校とPTA、地域で行う教育活動、「こころげんキッズプロジェクト」がスタートしました。今後の本校の研究を左右するのは健康部長としての私の「思い」にかかってきます。子どもたち自身が自分のことが好きで、友だちの話を上手に聞け、自分の気持ちを素直に伝えられるようになることを目指して、学校内外のプロジェクトチームと一緒に健康教育活動をプランニングしたいと思っています。

そして来年の今頃、実践を研究としてまとめられるようになっていれば嬉しいです。

研究助成金研究の経過報告

2009年度選定

幼稚園における養護教諭配置状況と  
その役割に関する調査研究

井澤 昌子（名古屋学芸大学）

大川 尚子（関西福祉科学大学）

2009年度の研究助成を受け、幼稚園の養護教諭に関する調査を実施することができましたことをご報告いたします。

本研究は、2009年12月中旬～2010年1月中旬に、大阪府下の公立・私立幼稚園を対象として郵送による質問紙調査を実施しました（回収数247園）。幼稚園における養護教諭の配置状況や保健室の機能・備品、保健活動などについて質問しています。全国調査で比較的養護教諭の配置が多かった大阪府を調査対象としましたが、正規配置されていたのは約2割の園に留まり、養護助教諭や非常勤の配置を含めても養護教諭の配置率は3割に満たないという結果が得られました。また、保健室については、「独立した保健室がある」。のは約3割の園のみで、多くの園が「職員室内に保健コーナーがあるのみ」と回答しており、「保健室も医務室のようなものはない」という園も少数あることが分かりました。

現在、養護教諭の配置状況と保健活動の実施状況との関連などについて分析をすすめており、10月に大阪府で開催される第18回学術集会において、研究結果の報告をさせていただく予定です。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただきました園の関係者の皆様、また、貴重な機会を与えていただいた日本養護教諭教育学会の学会員の皆様・理事の先生方に深く感謝申し上げます。

2009－2010年度選定

養護診断における  
効果的な問診に関する研究

吉田あや子（西南女学院大学）

近藤 恵（福岡市立梅林中学校）

柴崎卓巳子（川崎町立川崎中学校）

本研究は、養護診断における問診について養護教諭が行っている問診の現状を調査し、効果的な問診のあり方について提示することを目的に、2009年度から2年間の学会助成共同研究として取り組んでおります。

昨年度は、ほぼ毎月研究会を開き、キーワードを基に養護活動における問診等の先行研究の文献収集と分析を行いました。加えて養護教諭の専門性にかかわる

医学・看護分野の文献を収集し、その結果を経過報告として、昨年の弘前学会において口演発表をいたしました。その際、参加者の皆様からアドバイスやご意見等を頂き、深く感謝しております。

現在は、本調査を実施するにあたり、西南女学院大学の倫理審査委員会の審査を経て、福岡県内の養護教諭を対象に調査を実施中です。近日中に、得られた調査票の集計作業および分析等を行い、調査結果等を大阪学会において発表する予定です。また、論文作成も予定しており、養護教諭が行う問診の実施状況と課題等を明らかにし、適切な救急処置と保健指導、および生徒との信頼関係構築につながる効果的な問診のあり方が提示できればと考えております。

会員の皆様のご協力とご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 2010年度選定

### 養護教諭の学校経営参画に関する研究 — 学校組織力の開発活動の実例 —

留目 宏美 (聖路加看護大学)

この度、学会助成金研究として本研究を採択していただき、誠にありがとうございます。

学校教育の質を担保するためには、個々の教員の裁量に依拠するのではなく、学校組織全体の機能を高めることが有効であると考えられます。学校組織力の開発・育成・強化といった組織経営に関する事項は、管理職特に校長の手腕として一般的に捉えられ、学校経営戦略の一つとして積極的に研究が進められています。現在、学校評価を基軸とした学校組織開発は「それぞれの学校の個性、具体的な状況や実態に配慮しながら、学校自らつまり学校教育に関与する主体自身が、組織の構造、過程、文化の変革とそれを支援する試みを総合（佐古、2006）」する活動の総称と定義されています。

養護教諭は学校における唯一の専門職者として、児童生徒の健やかな成長発達を願い、主体的に学校組織開発に関する活動に取り組んでいるものと推察されます。学校保健の位置づけ、保健室の役割・機能や養護教諭の特性を鑑みても、当然必要不可欠な活動であるからです。しかしながら、これまで学校組織開発という視座に基づく養護活動について、体系・構造的に論じられていません。そこで本研究は、組織経営において根幹的な概念である戦略的組織化、特に組織開発に焦点を当て、養護教諭の経営実践を明らかにすることを目的としています。

本年度は養護教諭への質的研究調査（半構造的面接

法によるインタビュー調査）を実施し、調査結果の概念化を進めてまいります。引き続き、次年度は上記の結果に基づく質問紙の作成ならびに量的研究調査の実施を視野に入れ、邁進してまいります。

会員の皆様のご協力とご支援を今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 2011年度研究助成金研究の募集

高橋 香代 (学術担当常任理事)

2011年度研究助成金対象研究の募集を開始します。

研究助成金対象研究は、学会共同研究とは異なり、会員が自主的に応募する研究です。学会の発展のためにも、学会員の皆様には、ぜひ積極的にご申請をお願いします。

2011年度の研究助成金研究申請の締切は、2010年9月10日です。学会ホームページから申請書をダウンロードして、締切日までに学会事務局まで申請をお願いします。

申請された研究は、2010年10月8日に開催される第2回理事会で選定基準に基づいて審議し、年次総会に提案して承認を受けます。選定作業は、会員資格、研究の目的・独自性、研究方法、助成金の用途などの選定基準（2006年度総会承認）に則って行います。採択件数は2題で、研究助成金は1件10万円です。なお、研究期間を2年として継続申請する場合には、1年毎に改めて申請をお願いします。

また、研究助成金を受けた研究は、その成果を学術集会及び日本養護教諭教育学会誌に発表することが義務づけられています。研究成果につきましては、研究終了後1年以内を目途に日本養護教諭教育学会誌に公表されますようお願いいたします。

例年応募される研究の数はそれほど多いものではありませんが、採択数が2件と少ないために、残念ながら選定されない場合もあります。その場合は、理由をお示しいたしますので、次年度研究計画などを再検討の上、ぜひご申請をいただきたいと思っております。

## 第18回学術集会から 「投稿奨励研究」制度が発足

高橋 香代 (学術担当常任理事)

学術集会の一般発表から優れた研究を推薦する「投稿奨励研究」制度が、2009年度総会で制定されました。2010年度に開催される第18回学術集会（大阪）からスタートいたします。学会員の皆様の研究を推進する新

しい取組ですので、ご理解とご協力をお願いします。

本制度は、養護教諭教育に関する研究の一層の発展を図ること、とくに現職養護教諭による研究を推進することを目的としています。

具体的には、学術集会学会長、一般演題座長、日本養護教諭教育学会役員が、年次学術集会で会員が発表した一般演題の中から、投稿奨励研究としてふさわしい演題を推薦し、学会事務局に2010年11月30日までに届け出ます。2011年1月に開催する理事会で、推薦された演題から投稿奨励研究2題を選定します。選定された研究の発表者には、日本養護教諭教育学会誌への投稿を薦め、査読費用(7,000円)を免除する特典を与えます。また、学会誌掲載時は、投稿奨励研究であることを明記します。

2010年度第18回学術集会における投稿奨励研究の公表は、2011年6月のハーモニーで行ないます。

選定基準は、研究担当者が会員であること、研究内容が学会の趣旨にそっていること、研究の独自性が優れていることです。

なお、論文作成に当たって指導助言を希望される場合には、学術担当理事等が相談にのらせていただきます。

第18回学術集会では、記念すべき第一回投稿奨励研究が選定されます。学会員の皆様には、日頃の研究成果をぜひご発表ください。

## 学会誌第14巻第1号の 投稿原稿を募集しています！

2011年3月発刊予定

鈴木 裕子 (学会誌編集担当常任理事)

養護教諭の実践や、養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成および向上に寄与する活動)に関する研究を論文にまとめて投稿しませんか?学会誌上で会員が相互に研究成果を交換し合い、それを実践で検証し、また実践を研究にまとめるという研究の積み重ねによって、より質の高い養護教諭のあり方を追究していけたらと思っています。積極的な投稿をお待ちしています。

○投稿資格: 本学会の会員に限ります。

○原稿の種類: 論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。いずれかを明記してください。他の出版物に既発表または投稿されていないものに限ります。

○募集期間: 年間を通して受け付けていますが、第14巻第1号の原稿の締め切りは、2010年9月30日(木)必着です。

査読が終了し受理された論文から掲載しますの

で、早めに投稿されることをお勧めします。受理までに時間を要する場合には次号以降の掲載となる場合もあります。なお第15巻以降、学会誌を年2回発刊できるよう検討を進めています。

○投稿方法: 原稿はA4判横書き(40字×24行、10.5ポイント)で作成してください。執筆要領や同封物等の詳細については、学会HPまたは学会誌第13巻第1号P.233~238に掲載の投稿規定で十分ご確認のうえ、編集委員会事務局へ送付してください。例年、送付先の間違い、規定枚数の超過、文献記載様式の誤りなどが見られますのでご注意ください。

※原稿の送付および問合せは、下記編集委員会事務局をお願いします(学会事務局とは異なりますので、ご注意ください。)

<編集委員会事務局>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

国土館大学文学部 鈴木裕子

TEL 03-5451-8161(研究室直通)

e-mail suzukiyu@kokushikan.ac.jp

## 理事会等の活動報告

2009年7月以降の理事会等の活動報告は次の通りです。(氏名は50音順)

☆理事会

### 1. 2009年度 第2回

日時: 2009年7月26日(日) 13:00~17:00

場所: 名古屋市都市センター(名古屋市)

出席者: 後藤、下村、鈴木薫、鈴木裕子、高橋、徳山、永田、三木、山崎、吉田  
(欠席: 小林)

内容: 新体制における各業務の確認、2009年度会計中間報告、研究助成金研究の募集・投稿奨励研究の選定の仕方、用語の解説集について、第17回学術集会の企画と運営、2009年度総会準備等

### 2. 2009年度 第3回

日時: 2009年10月9日(金) 15:00~17:00

場所: 弘前大学文京町キャンパス(弘前市)

出席者: 理事9名(欠席: 高橋、永田)、  
今野監事、面澤学会長

内容: 2009年度総会の運営及び議案確認、  
2009年度研究助成金対象研究の採択、  
プレ・コンGRESの進行確認等

### 3. 2009年度 第4回

日時: 2010年1月11日(月/祝)

10:00~16:30

場 所：キャンパス・イノベーションセンター  
(東京)

出席者：理事10名(欠席：高橋)

内 容：2009年度総会及び第17回学術集会の総括、2009年度事業の経過報告等  
午後「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」委員との意見交換

#### ☆常任理事会

##### 1. 2010年度 第1回

日 時：2010年4月4日(日) 13:00~16:00

場 所：女子栄養大学駒込校舎(東京)

出席者：後藤、鈴木裕子、三木、山崎  
(欠席：高橋)

内 容：2009年度事業の総括と会計報告、第18回学術集会進捗状況、2010年度事業計画、学会活動の充実等

#### ☆編集委員会

##### 1. 2009年度 第1回

日 時：2009年7月26日(日) 10:00~12:00

場 所：名古屋市都市センター(名古屋市)

出席者：鈴木裕子、大川、斉藤真、鈴木薫、竹田、山崎(欠席：大塚、鎌田、斉藤ふ、中川、松田、道上)  
オブザーバー：後藤

内 容：2009年度編集委員会業務と役割分担、学会誌第13巻第1号の企画、ハーモニー第50号の企画等

##### 2. 2009年度 第2回

日 時：2009年10月9日(金) 16:00~18:00

場 所：弘前大学文京町キャンパス(弘前市)

出席者：編集委員8名

(欠席：大塚、中川、松田、道上)

内 容：日本養護教諭教育学会誌第13巻第1号の特集の検討、編集日程の確認、ハーモニー第51号の企画、学会誌年2回発刊の検討等

##### 3. 2009年度 第3回

日 時：2010年1月10日(日) 10:00~17:00

場 所：横浜ラポール(横浜市)

出席者：編集委員9名(欠席：鎌田、松田、道上)

内 容：日本養護教諭教育学会誌第13巻第1号の編集進行状況報告と発刊スケジュール、投稿原稿受理と掲載順について、ハーモニー第52号の準備状況等

◇この他、2~3月に編集作業のための小委員会を3回(神奈川)開催。

## 事務局より

下村淳子(事務局長兼理事)

#### ☆住所変更等の届けはお早めに!

所属先や住所が変更になった方の学会誌やハーモニーが事務局に返送され、お届けが遅くなっています。

発送先等が変更になりましたら、まず事務局にご連絡下さい。学会誌巻末の「会員登録」変更届をご利用の上、FAXでお送り下さい。または同様の内容をEメール(JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp)でご連絡いただいても構いません。

#### ☆アンケートはお済みですか?

3月31日付けで学会誌第13巻第1号をお送りした際、会員対象のアンケート(I・II・IIIの2部)を同封しました。回答はもうお済みでしょうか?多くの方のご意見を学会活動に反映していきたいと思っていますので、期限は過ぎていますが、まだお手元にある方は6月末日までにご返送下さい。お一人でも多くの方の回答をお待ちしています。

#### ☆他学会等のホームページと相互リンクをしました。

会員に対する情報収集の利便性を図るため、日本学校保健学会、日本健康相談活動学会、全国養護教諭連絡協議会の許可を得て、相互にリンクできるようにしました。これにより、より多くの方に本学会を紹介していきたいと思っています。ホームページの内容につきましても、順次更新していきますのでご期待下さい。

#### ☆6月のNHK『中学生日記』で“保健室シリーズ”を放映!!

3ヶ月の研修に行く野並先生の代理として、男性養護教諭の八田先生(なだき武さん)が着任します。

第1話は5日(土)、第2話は12日(土)、第3話は26日(土)です。名古屋市や愛知県の養護教諭の方々が取材に協力し、本会の後藤理事長が監修を務めました。

放送は教育TVで夜17:15~17:45ですが、1週間後の別の時間帯に再放送があります。保健室と養護教諭にきちんと向き合った番組です。是非、ご覧下さい。

## 編 集 後 記

今回よりA4判にリニューアルしました。「トピックス」、「私の県のここが特色」、「私の実践と研究」の掲載も久しぶりに叶いました。会員の皆様に情報をいただきながら、より充実した紙面になればと願っています。

今後ともご協力方、どうぞよろしく願います。

(K)